

Moodle を利用した日本語の教室活動の試み

福島 智子

キーワード：Moodle、e-Learning、地理・歴史、用語集、フォーラム

1. はじめに

近年、大学は、学生数の増加やニーズの多様性、学力の低下等の問題から、従来の枠組における教育内容から変容せざるを得なくなり、それらを改善すべく様々な試みを行うようになった。そのような様々な試みの一つとして、e-Learning システムの活用がある。

e-Learning システムを活用した大学の講義の実践は増えつつあり¹、新たな形式の授業や様々な問題を解決に導くような授業が報告されている。例えば、e-Learning を有効に活用することで、講義時間外における学習や欠席した授業の補完等、学びの継続を支援することに役立ったり、受講人数の制限や T.A. の充当等を必要とせず、学生間の講義時間内外の相互交流による学習効果を高めるとともに、教員の負担も軽減したりしたことなどの報告がある（黒田・岡本・西之園 2008 等）。

桜美林大学日本語プログラムでは、08 年度春学期より Moodle（ムードル）を利用した講義が行われるようになった。Moodle とは、コース管理システムと呼ばれるソフトウェアの一つで、コンピュータ・ネットワークシステムを利用した e-Learning システムである。授業の中で、教員が資料を配布したり、テストをしたり、課題を与えたり、また学生が配布物を受け取ったり、テストを受けたり、課題を提出したりといった様々な教室での活動を、コンピュータとネットワークの力で支援し、授業を補完・補強する。

稿者は、08 年度春学期に「日本語演習（上級・地理と歴史の用語）」という留学生を対象とした日本語の授業を担当し、この授業において Moodle の利用を試みた。

導入されて間もない時期で、学内に参考とできるような具体的な報告がないまま、利用を試みたため、うまく利用できたものもあれば、失敗したものあり、中途半端に終わった活動もある。こういった形で紹介するにはさらなる実践が必要だと思われるが、それにも

関わらずここにまとめるのは、実践を整理することで課題を明らかにし、次回に活用させ発展させるためであり、また、一つの実践を紹介することで、学内の他の実践と情報交換を行いたいと考えるためである。

以下、利用を試みた日本語の授業について簡単に説明を行い、次に具体的な Moodle の活動の紹介を行う。最後に Moodle を利用したことに関する学生の感想を紹介する。

2. 授業の概要と Moodle 利用の理由

科目名 : 日本語演習 (上級・地理と歴史の用語)

コマ数 : 週1コマ、選択授業

受講人数: 21名 (国籍は中国、韓国、インド等で、ほとんどが短期留学生)

授業内容:

日本の小中学校で学ぶ地理、歴史、政治、経済に関する基本的な用語・表現を様々な課題を通じて学び、専門の講義やゼミ、新聞・ニュースのために必要で、基礎的な用語や背景を理解できるようにすることを目的としている。

この授業の目標は、まず、専門授業で求められる地理、歴史、社会に関する基本的な用語・表現を理解し、使うことができるようにすること、次に日本の社会の動きに関心を持ち、大きなニュースに関する情報や知識を深め、意見を述べられるようにすること、さらに日々の生活からも自分に必要だと考える用語・表現を積極的に身に付けようという姿勢を持ち、自律的に学習できるようにすることである。各授業内容は下記の通りである。

- 1 (4/21) オリエンテーション、授業の説明等
- 2 (4/28) 地理1回目 (都道府県名、地方区分、政令指定都市)
- 3 (5/12) 地理2回目 (日本の地形)、ディスカッション、小テスト
- 4 (5/19) 地理3回目 (日本の地形)、ディスカッション、小テスト、地理リスニング
- 5 (5/26) 地理4回目 (世界遺産)、ディスカッション、小テスト、地理リスニング
- 6 (6/2) 歴史1回目 (時代名、時代の特徴、活動)、ディスカッション、小テスト、地理リスニング
- 7 (6/9) 歴史2回目 (調査活動)、小テスト
- 8 (6/16) 歴史3回目 (活動の発表、評価)
- 9 (6/23) 社会1回目 (フードマイレージ)、ディスカッション
- 10 (6/30) 社会2回目 (フードマイレージ)
- 11 (7/7) 社会3回目 (日本の医療)、小テスト、地理リスニング
- 12 (7/14) 期末テスト

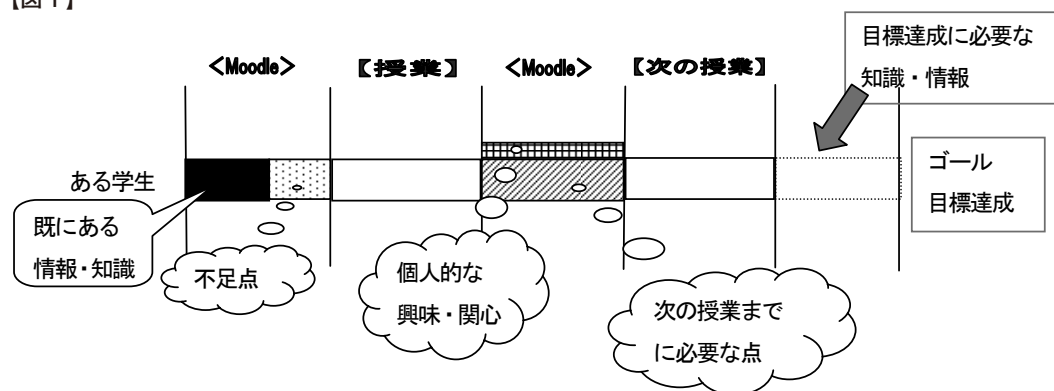
13 (7 / 24) テスト返却、解説、アルバム作成

この授業で Moodle の利用を試みたのは、稿者がこの授業を担当するようになって 4 年たつが、毎年同じような悩み、反省点を抱えており、Moodle を利用することで、そういった問題が少しでも解消できるのではないかと考えたためである。具体的には、

- 授業の名前が示すように提示、指導しなければならない内容が多く、授業時間だけでは非常に限られた内容しか教授できなかったこと
- 日本の地理や歴史に関して、留学生の既存の知識や情報、背景、学習歴等にばらつきがあり、共通の知っていること、知らないことがつかみにくく、どこをスタートラインにしたらいいのかわかりにくかったこと
- 日本の地理や歴史への興味、関心の差が大きかったこと、つまりニーズが多様であったこと

などがある。そのため、授業時間では共通に提示・指導すべき重要なところのみを扱い、Moodle では、個別の部分、つまり、授業時間で共通に行うことを受ける準備をするところ、受けたあとで、自分の中に取り入れるのを促進するところ、個人的な興味や関心を満足させるところなどを扱うといったように、役割分担ができれば授業の目標を達成しやすくなるのではないかと考えたのである。この役割分担を図で表すと以下ようになるであろうか。

【図 1】



つまり、授業を受けるために必要な知識や情報が既にあるものだけでは不足している場合は、その不足点 (点線) は Moodle で補足する。その後、不足点を補い授業を受けるが、その次の授業を受けるための準備として、授業の内容を復習したり、不足していたら補ったりすること (斜線) を同じように Moodle で行う。また、個人的な興味や関心 (格子線) があれば、それも Moodle で学習すれば、授業とは直接関連がなくとも、授業の目標達成に

必要な知識や情報を支えるものとなり、よりしっかりした知識・情報を獲得できることとなる。

3. 活動の紹介

今回の授業では Moodle に様々なりソースの追加を行い、フォーラム、用語集、小テストといった活動を行った。以下、それぞれ詳しく説明する。

3-1. スケジュール・授業内容の提示

作成されたコースサイト（科目ごとに履修者のみがアクセスできるウェブサイト）をトピックごと、つまり授業回数でブロックを作り、コースを構成した。授業回数は全部で13回だったので、13のブロックを作り、それぞれのブロックに授業内容を入れ、スケジュールを提示した。

【図2 コース設定の編集画面】

コース設定の編集

一般

名称*

省略名*

コースIDナンバー

要約

Trebuchet 1 (8 pt) 言語 B I U S x₂ x²

日本の小中学校で学ぶ地理、歴史、政治・経済の用語・表現を様々な課題を通じて学びます。専門の講義やゼミや新聞・ニュースのために必要で、基礎的な用語や背景を理解できるようにします。

パス: body » div#page

フォーマット

週トピックの数

開講日

情報や連絡を確実に伝えるため、Moodle を確認する曜日を決め、学生に必ず見るように指示した。そして、学生が事前に授業内容を把握し、漢字が読めないなどの個人的な不足点があったら、次の授業範囲を補ってくるなど、予習としても利用できるようにし、学生が準備して主体的に授業に臨めるようにした。また欠席した学生もその日の授業について知り、次回の授業にスムーズについていけるようにした。

【図3 スケジュール】

3 🌟 5/12 地理2回目

1. 小テスト①
2. 情報&ディスカッション①「成人年齢」
3. 地理リスニング「都市部への人口集中進む」
4. 地理
 4. 日本の地形
 - 4-1. おもな山地・山
 - 4-2. おもな川・湖

📄 情報&ディスカッション①「成人年齢」 まだの人はどうぞ送ってください！

📄 地理2回目(福島) ＊意見お待ちしております！

4 🌟 5/19 地理3回目

1. 小テスト②「4-1,2,3 おもな山地・山、川・湖、島」
2. 情報&ディスカッション②
3. 地理リスニング②「天気予報」
4. 地理
 3. 政令指定都市

【図4 アナウンス】

5 🌟 5/26 地理4回目

1. 小テスト③「政令指定都市」「おもな半島・湾・海岸」

2. 情報&ディスカッション③

情報提供者さん 5月22日(木) 正午までにメールで送ってください。厳守！

みなさん、情報をしっかり読んで、準備をしてきてください。

3. 地理リスニング③

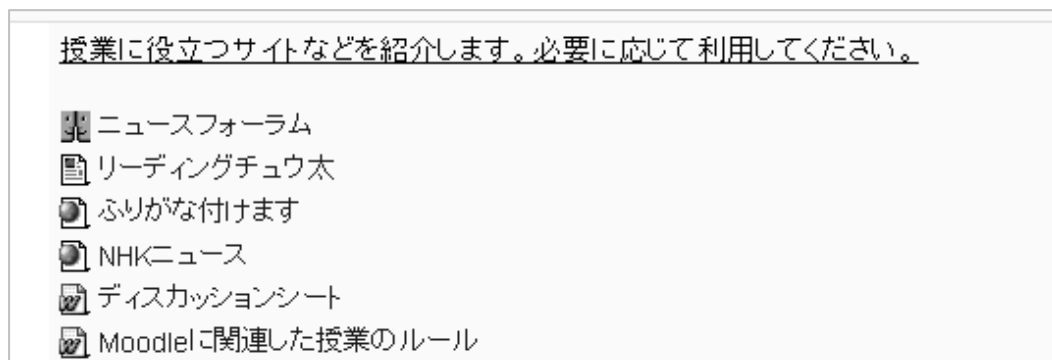
さらに、上の図4のように授業中にアナウンスできなかったことや強調したいことを載せ、授業中の不足点を補い、スムーズな進行に役立てた。例えば、課題が提出期限から遅れていたたり、課題が条件と違ったまま提出されたりした場合に、以前なら個人的にメールで連絡したり、次回の授業時に説明し直したりし時間や手間がかかっていたが、Moodle を利用すると簡単に解決できた。欠席した学生もこの画面上のアナウンスを見て、期日に課題を提出できた。

留学生の中には、聴解の力が不足している学生もあり、そのような学生に対しては、授業中に説明したことが Moodle 上でも視覚的に確認でき、助けになったのではないかと思われる。

3-2. リソースの追加・提供

授業に関連のあるインターネット上の教材等を紹介し、授業や学生の個人的な学習に役立たせた(図5)。例えば、留学生の中には漢字を読むことが苦手な学生も多いので、振り仮名を自動的につけるウェブサイトや留学生を対象とした日本語学習のウェブサイトなどを載せ、学習の効率化を図った。

【図5 リソース等の紹介（一部）】

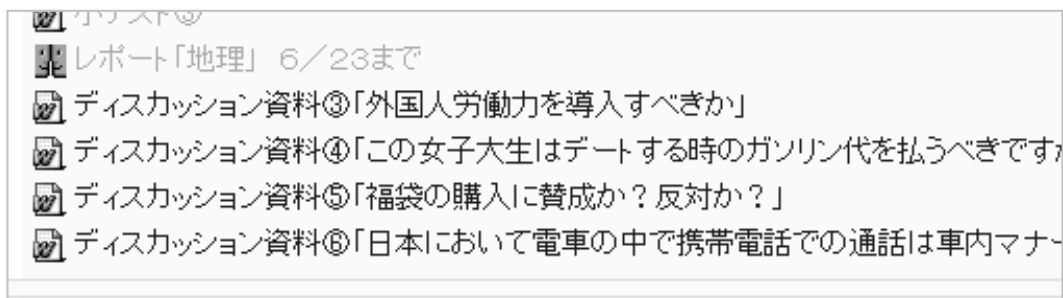


また、授業の配布物や毎週行っていたテストは期間を限定して載せるようにした。以前ならテストは欠席などで受けられなければそれで終わってしまい、テストをすることで得られる学習のチャンスさえも奪いがちであったが、Moodle 上から自由に印刷し受けられることで、評価にはならなくとも学習のチャンスをつくることができた。テストを授業中に受けた学生でも、期末試験の対策用に利用していた。欠席などで配布物が渡せない場合、どの学生にどの配布物を配布したかなどの管理が大変であったが、自由に印刷できるようにしたことでそのような煩雑さも軽減した。

評価の対象とはしなかったが、用語の習得の助けとなるような課題を何回か載せた。評価の対象としないような資料の提供は、例えいい内容のものであろうと、配布や管理の煩雑さから、授業、つまり教室の場だけであるという後回しにしがちになってしまうが、Moodle を利用することで簡単に提供できた。課題の内容は様々であったが、学生は内容を選んで課題をこなし、学生の個別の不足点を補ったり、興味を満足させたりすることができたと思われる。

さらに大きな負担の軽減となったのは、下の図6のように、ディスカッションの資料を載せられたことである。この授業では、2の授業概要のスケジュールで示した通り、ディスカッションを数多く行うが、毎回何人かの担当の学生がディスカッションするための資料を持参し、授業の前半を使って行っていた。昨年までは、当日に資料が来るので、資料をその時に読まなければならず大変時間がかかってしまっていた。しかし今年は、ディスカッション資料を教員から Moodle に載せられれば、すぐに学生が読むことができ、授業当日はディスカッションからスタートすることができるようになった。

【図6 ディスカッション資料】

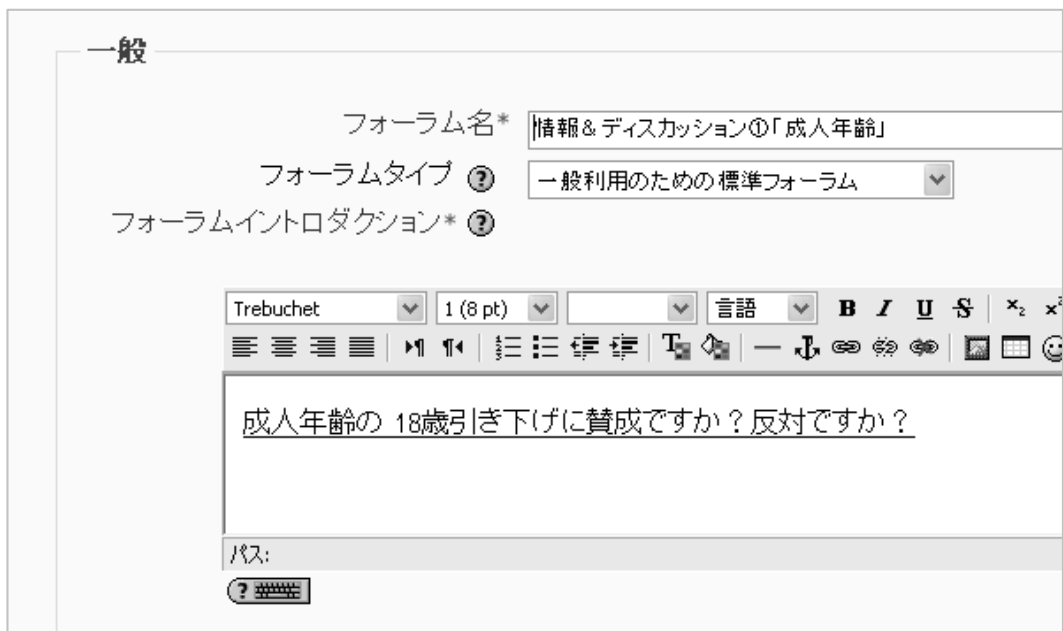


読解能力は学生によって差があるので、当日に資料の読解から始めるとグループごとにディスカッションの進行にばらつきが出てしまったが、資料の理解が難しい学生は事前に予習してからディスカッションに臨むので、進行がスムーズになり、内容もよく理解していることで、質の高いディスカッションになったと思われる。何点か挙げられる資料も読んでから1点に選択できるので、個人的な興味や関心にも応じられた。

3-3. フォーラム

授業中にディスカッション活動を行っていることは先に述べたが、そのうちの2回の活動は、自分の意見を書き、クラスメイトの意見を読むというものに限られるがフォーラムで行った。

【図7 フォーラムの編集画面】










今回提示したのは、成人年齢 18 歳引き下げに関するものとフードマイレージに関するものである。図 8²は、そのうちの成人年齢に関するものである。

【図 8 フォーラム】

成人年齢の 18歳引き下げに賛成ですか？反対ですか？

ディスカッションピックを

ディスカッション

<div style="background-color: black; width: 100px; height: 20px; margin-bottom: 5px;"></div>		姜
私は反対です。		郁
成人年齢の 18歳引き下げに賛成ですか？反対ですか？		楊
成人年齢の 18歳引き下げに賛成ですか？反対ですか？		田
成人年齢の 18歳引き下げに賛成ですか？反対ですか？		田
成人年齢の 18歳引き下げに賛成ですか？反対ですか？		江
賛成です。		陳
成人年齢について		

大反対です
 2008年 05月 16日(金曜日) 15:41 [ユーザー名] の投稿

成人年齢の18歳引き下げに、私は反対です。18歳の子供が政治観がまだ未熟なので、国の成り行きにかかわり成人年齢を20歳から18歳に引き下げたら、若者たちが酒を飲んだり、タバコを吸ったりということが社会という恐れがあります。それはまるで、寝た子を起こすような愚かな行動だと思います。

授業の限られた時間では、1つの活動に十分な時間を取ることが難しいこともある。しかし Moodle を利用し、授業時間の外でもディスカッションの場を提供できたので、活動を途中で終了させることなく最後まで行えた。ディスカッションは、4、5グループに分けて行っていたので、授業中だけであると3、4人の学生同士での意見交換になってしまうが、Moodle も利用すればクラス全員の学生の意見を知ることができ、その点でもよかったと思われる。

また、さらに自分の意見を書くという作業が加わったことも学習上よかったと思われる。授業中に一度発信したことでもう1度書くことで自分の意見が整理できるし、発話だと見逃しがちな日本語の間違いも書くことで気づき、直しながら意見をまとめられたので、日本語の力を上げるためにも役に立ったと思われる。

3-4. 用語集

用語を学習することは、この授業の名前からわかるようにこの授業の大きな目的の一つである。学生はただ教員側から提供された用語を覚えるだけでなく、授業中に学んだことから自ら必要な用語を選び整理し覚えることが望まれる。

このように必要な用語は自ら学んでほしいという希望から、自分の用語集を作成することを授業中に度々触れ、昨年度までは、その一部に関してはレポートのような形でまとめ紙で提出してもらっていた。用語は学習者自らのものだと考えていたので、用語の選択の仕方など用語集の形式は指定しなかった。そのため提出されたレポートは様々だった。レポートに挙がっている用語をみると、学生がどういう観点でまとめたか、どんな学習方法を使っているのかなどわかることもあり、こちら側も勉強になることが多かった。こういった学習の効果から、一部の授業だけではなくすべての授業日で用語をまとめてほしい、また、学生同士がこの用語集を共有してお互いに学びあってほしいと思っていたが、学生の負担や時間の不足から、機会を作ることができないままだった。

このようなことを省み、今年度は Moodle を利用し、用語集の活動を行うことにした。すべての授業日でその日の用語を作成することは、やはり学生の負担の大きさを考慮してやめ、教員側が重要な用語、身に付けてほしい用語を提示することに代えた。

学生に課題を課すのは、用語のバラエティが多いと予想した社会問題を扱った授業の時にし、用語集の作成を指示した。

授業では、フードマイレージを扱い、「日本の食」に起こっている問題について考えたが、授業後に図 10 のように学習した用語を 20 語以上あげ、まとめるように促した。

クラスメイトから学ぶことも重要だと考えたので、クラスメイトの用語を見て気づいたことをまとめることも課した。様々な声があったが、ある学生は、漢字の読み方まできちんとまとめているクラスメイトの用語集をみて、自分は漢字が弱いにもかかわらず、手間がかかるから省いてしまったのでよくなかったなどと反省していた。他の人のまとめ方を見て勉強になったという感想もあった。また、用語をノートに書いてまとめるのは時間もかかり大変だから嫌だけど、パソコン上なら簡単にでき、しかも覚えられるのでいいという声もあった。

3-5. 小テスト

期末テスト対策として学生が自由に学習できるように、期末テストの範囲の中から小テストを作成した。漢字は留学生にとって負担が大きいため、選択肢の問題を作り提供した。

【図 11 小テスト編集画面】

The screenshot shows the Moodle question editor interface. It is divided into two main sections: "一般" (General) and "タイミング" (Timing).

一般 (General):

- 名称*** (Title): 期末テストの準備に使ってください。歴史読み方復習テスト(18問)
- イントロダクション** (Introduction): A rich text editor with a toolbar containing options for font (Trebuchet), size (1 (8 pt)), language (言語), bold (B), italic (I), underline (U), strikethrough (ABC), subscript (x₂), superscript (x²), bulleted list, numbered list, link, unlink, unlink all, insert image, insert video, insert audio, insert file, and help.
- パス:** (Pass) field with a password icon.

タイミング (Timing):

- 小テスト公開日時** (Quiz start date): 7 / 7月 / 2008 / 12 / 00. Includes a "No" checkbox.
- 小テスト終了日時** (Quiz end date): 11 / 7月 / 2008 / 16 / 00. Includes a "No" checkbox.

パソコンを使うことで、ゲーム感覚で学習できるため楽しみながら期末テストの対策ができたのではないかと考えられる。実際に昨年度までは、期末テストの対策を紙の自習用プリントで行っており、取り組んでいた学生は少なかったが、今年度は取り組む人が多かった。Moodleのほうが紙で行うより書いたりする負担が少なく、楽にできることがわかったためだろうと思われる。

また、Moodle を利用すれば、教員が情報リテラシーのスキルをあまり持っていないでもこのような形の学習教材も作れるので、多くの教員が利用しやすいと思われる。

【図 12 小テスト】

期末テストの準備に使ってください。歴史読み方復習テスト(18問)のプレビュー

中世	選択...
鎌倉時代	選択...
江戸時代	選択...
古代	選択...
奈良時代	選択...
明治時代	選択...
平安時代	選択...
大正時代	選択...
安土桃山時代	選択...
近世	選択...
昭和時代	選択...

以上、活動を紹介した。Moodle を利用することによって、今回特に実感した点は、学習を教室だけでなく教室外へと開かれたものにするという点、学習方法の選択肢を増やすという点、学生が主体的に学べるという点であるが、他にも大きな可能性を持っていると思われる。

4. Moodle 利用者の声 — アンケート調査の結果より —

授業終了時に授業のやり方に関するアンケート調査を行ったが、その中で Moodle の利用に関しても質問した。その結果、Moodle の利用そのものに関しては、60%の学生が好意的に受け止めていた。

Moodle を利用して行った活動それぞれに関してもたずねたが、すべての活動で「よかった」という声のほうが多かった。特に多かったものとしては、授業のスケジュールや内容が提示されていたことが80%、授業の配布物、小テスト、課題などが載せられており、自由に利用できたことが76%、期末テスト対策用に小テストが利用できたことが70%などが

あった。

学生の具体的な声として圧倒的に多かったのが、「便利だった」ということである。その他、「欠席のときも授業の活動がわかり、配布物なども受け取れてよかった」「先生が言っていた宿題を忘れても、Moodle を見てすぐわかる」「前回あるいは前々回の授業内容を復習できる。予習もできる」などがあった。アンケートの数字にも表れているが、やはり授業のスケジュールが提示されていたこと、配布物等が載せられていたことに評価が高いことがわかる。また、「自分の意見も書けますし、ほかの方の考え方もわかるようになりました」という声もあった。フォーラムでは他のクラスメイトの意見も見られることから、自分とは異なった意見を見るチャンスも増え、深い考察へ導くきっかけとなったと思われる。さらに留学生ならではのと考えられるが、「パソコンで日本語を打つのもいい練習としてかなり役に立ちます」というものもあった。日本語のタイピングは留学生にとっては難しいが、このようなスキルを向上させることにも役に立ったようだ。

こういった声の一方で、「面倒くさかった」「家でネットができない人にはちょっと不便」「面倒くさい。パソコン苦手の人もありますので」などといった声も多く聞かれた。確かにインターネットの環境が整っていない場合には負担が大きい。日本人学生と比べると、留学生は家にパソコンを持っていない人が多いため、便利な反面、条件がそろっていないと多大な負担を強いることになってしまう。

5. 課題と今後の進め方

学生へのアンケート調査の結果から、パソコン、インターネットの環境が整っていなかったり、情報リテラシーのスキルが低かったりすると、学生に大きな負担をかけることが明らかになった。Moodle の利用に仕方によっては、単位を取得することにも影響を及ぼす可能性があることもわかった。今回は初めての試みであったため、留学生のこういった状況を考慮に入れて利用したつもりであったが、それでも複数の学生から指摘された。今回配慮した点は、Moodle を使った活動を行う場合は、授業中にも実際に画面を見せながら説明をし、授業時間以外でもわからないことがあれば対応するとしていた点、課題やテストの提出期限を長めに設定した点、Moodle を使った活動をできるだけ評価対象から外した点である。今後もこのような配慮は必要になるだろう。

それぞれの活動について振り返ると、まず、スケジュール、授業内容の提示は、アンケート調査の結果で評価が高かったことから、今後も提示していくべきであろうし、できるだけ授業全体の流れを把握しやすく示していくことが必要だろう。また様々なりソースの追加、すなわち、配布物や小テスト、インターネット上の教材などを載せることも評価され

ていることから、今後も続けていくべきだろう。それには、さらなる教材の研究や学習者の利用のしやすさなどを検討していくことが重要だろう。ただ、今回の反省点であるが、リソースが簡単に追加できることから、つい様々なものを入れてしまったが、評価の対象とはしなくても必要以上に追加すると、学生にプレッシャーを与えてしまうので、注意が必要である。アンケートに課題が多かったと思うという声があった。

フォーラムでは、今回ディスカッションの活動のために利用したが、先にも述べたように自分の意見を書き、クラスメイトの意見を読むということまでであった。その後の活動、すなわちクラスメイトの意見をどう思ったか、クラスメイトの意見を読んで自分の意見や考えがどうなったかという学習はできなかったのも、ディスカッションの効果が半減してしまったと思われる。また、教員からのフィードバックは授業中にしてしまったので、授業時間を有効に使うという点を考えれば、Moodle をさらに利用すべきであった。

用語集は、今回は教員の呼びかけにより作成したが、望ましいのは学生が自ら作成することである。システム上困難なことかもしれないが、授業日ごとに自分に必要な用語を選び取りまとめていき、授業終了時には、Moodle 上で学生それぞれのオリジナルの用語集が出来上がるようなことができると非常に意味のある成果物になったと思われる。また今回は、学生のクラスメイトへのフィードバック活動は授業中に行ったが、Moodle 上で行えば時間の節約にもなるし、簡単にクラスメイトの成果物が見られるので、よりスムーズに学生同士の学びを促せたのではないかと考える。

小テストは、昨年度の紙の自習用プリントよりも利用が多かったのも、楽しく学べるということを考えれば今後も取り入れていくべきであろう。今回の問題の形式は、多肢選択問題という一つの形でしか提供できなかったのも、今後は内容によりいろいろな形式で提供すべきだと考える。

こう見ていくと活動に関しては、Moodle の機能を半分だけ利用し、残りの半分は Moodle 上で行えるのにも関わらず授業時間に行うなど、中途半端に利用してしまった面も見られる。フォーラムや用語集での教員から学生に対する評価やフィードバック、学生同士の評価活動は、Moodle を利用すれば、時間をより有効に使ったり、より簡単に評価活動を行ったりできたと考えられるので、今後はこのような点をさらに改善していきたいと考える。

6. おわりに

以上、Moodle を利用した活動を紹介してきた。実践は、様々な試行錯誤の連続ではあったが、実際にやってみることで、教室活動の幅を広げ、新たな選択肢を増やすことができた。今後は、今回明らかになった課題を改善し、来年度はさらに有効に Moodle を利用し、

学生の様々なニーズに対応できる授業を提供したいと考える。

今回の試みは未熟で不十分な点が多々あるが、他の実践と情報交換のきっかけとなれば、幸いである。

参考文献

黒田恭史、岡本尚子、西之園晴夫（2008）「学びの継続を支援する e-Learning を用いた高等教育」『日本教育工学会研究報告集』日本教育工学会

井上博樹、奥村晴彦、中田平共著（2006）『Moodle 入門－オープンソースで構築する eラーニングシステム』海文堂

註

¹ e-Learning 等の ICT を活用した教育に関する調査報告書（メディア開発教育センター）によると平成 19 年度の大学における e-Learning の実施率は 46.1%であり、平成 15 年の 23.8% と比べると 2 倍以上増加しているということである。

² 図 8 上の■■■■は、稿者が付け加えたものである。